令和６年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

伊 那 市 教 育 委 員 会

１　調査の目的（文部科学省）

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　令和６年度調査実施日　　４月１８日(木)

３　調査対象　　小学校第６学年、中学校第３学年

４　調査内容

（１）教科に関する調査

・小学校：国語　算数　　・中学校：国語　数学

（２）質問紙調査

・児童生徒に対する質問紙調査　　・学校に対する質問紙調査

５　結果の概要と改善のポイント

（１）小学校

①　国語

昨年度、課題であった「記述式」の問題に改善が見られ、問題形式による全国との差は認められない。各学校で授業の中で意識的に「書くこと」を位置付けた成果と思われるが、無回答率が依然として高いことから指導の継続を市全体の取組としたい。さらに「考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付ける」力に伸長が見られた。一方、漢字の熟語を書く問題に苦手意識があることが明確になった。AI ドリルの活用や生活と結び付けた指導を図っていきたい。「話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができる」力に課題が見られた。相手に伝わるように順序に気をつけて短い文で話すことを日常的に指導する必要がある。長期的には、児童が主体的に取り組む授業への改善をなおいっそう進めるとともに読書活動の充実なども大切にしていきたい。

②　算数

学習指導要領の領域では「図形」「変化と関係」で学力の定着が見られ、「データの活用」で課題があった。「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるか」という問題では誤答率、無答率とも高い。評価の観点では、「知識・理解」に比して「思考・判断・表現」に課題が大きい。問題形式では、選択式に比して「記述式」に課題がある。算数の授業改善として、計算問題を機械的に繰り返すのではなく、自分で式を作れるようになる学習を大切にしたい。また与えられた数字や条件、図や表から必要な情報を読み取って、求めたり考えたり式を作ったりする授業を構想していきたい。

（２）中学校

①　国語

知識及び技能の内容では「情報の扱い方に関する事項」、思考力・判断力、表現力等の内容では「話すこと・聞くこと」の正答率が高い。その他の内容は全国平均とほぼ同じか若干下回る正答率であるが差異は小さい。「単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分

の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深める」「比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使う」といった点に課題が見られた。日々の授業の中で「言葉の特徴や使い方に関する事項」を中心に基礎的な知識及び理解の定着をはかるとともに文章の内容を的確に解釈することや対話的な活動を充実させることを意識しながら、思考力・判断力・表現力をさらに伸ばしていきたい。

② 数学

正答率は全体的に全国平均をやや下回っている。評価の観点において「知識・技能」に課題が見られるが、「思考・判断・表現」は概ね良好な結果となっている。思考力を高める授業づくりの成果だと考えられる。領域では、「数と式」「データの活用」に課題があり、「文字を使った説明」「等式の変形」「数式を用いた説明」の正答率が低くなっている。基礎的な知識・技能の定着を図りながら、改善が進んでいる「思考・判断・表現」の授業の充実をさらに図っていきたい。解答の成否のみならず、数学的に考えたり、気づいたり話し合ったリしていく解決に至る過程を大切にする授業づくりを進めたい。

６　児童生徒質問紙調査から

生活面において、「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る、起きる」割合は全国とほぼ同じであり、概ね規則正しい生活が送れている。

自分の良さの認識は、教師からの承認の認識は昨年度より上がっており、学校での学びの充実とともに、教師からの支援が一人一人の児童・生徒へ届き、自己を肯定的に捉えられる児童・生徒が増えていると思われる。同時に、いじめを許さず、困っている人を進んで助けたいと考えている児童・生徒の割合も高い。

学校へ行くのが楽しいと感じている児童・生徒の割合は、小学校でやや低いものの、困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できるという児童・生徒は多い傾向を示している。学校の相談体制が有効に機能していると言え、引き続き、児童・生徒の声に耳を傾け、寄り添った支援を継続していくとともに、楽しいと感じられる授業づくり、諸活動の充実、人間関係づくりを進めていきたい。

学習面において、市が大切にしているＩＣＴ教育に関わる項目「授業でのＰＣ・タブレット等のＩＣＴ機器の使用」について、ほぼ毎日使用している割合は、小学校・中学校共に全国に比して高い割合となっている。

家庭学習時間（学習塾や家庭教師、インターネットの活用を含む）について、平日は、児童・生徒共に全国より短めの傾向であるが、休日は、小学生は全国とほぼ同等、中学生は全国より長くなっている。学習時間の長短だけではなく、その目的や方法の充実も合わせて、より充実した家庭学習のあり方を探っていきたい。

英語について、小学校において英語の勉強が好きな児童の割合が低い傾向にあり、小学校での英語学習について、授業の内容や進め方、学級担任と ALT との連携等について伊那市小学校の課題として検討していくことが急務である。

７　今後の取組

各学校において本年度の全国学力・学習状況調査の分析に基づいた授業改善及び学力向上の方策を明確にして具体的な実践を進める。調査対象学年のみの特長や課題としてとらえるのではなく全学年で取り組むことが重要である。課題となった「学習指導要領の内容」「評価の観点」「問題形式」は各学校によって異なるため、学び直しの内容や個別指導の方法は実態に即したものでなければならない。ＩＣＴ機器の利活用についてもさらに研究と実践の検証を進め、個別最適な学びと協働的な学びを並立的に授業において推進していく。一方で家庭学習のあり方についても近年、研究が進んで改善されてきている。作業的な事柄や内容に時間を費やす従前のものから自ら課題を考え、興味関心のある学習内容の追究を深めたり、苦手だったり、理解が不十分な内容に取り組んだりする家庭学習に改善されつつある。児童生徒への支援、指導を積み重ねたい。